

◆2022年 第5週(1月31日～2月6日)

今週から翌週にかけては出張や地方講演が続く予定だったが、最初(2月1日～2日)の地方出張が3時間ほどのWeb会議に変更となる。

議題は幾つかあったが、なかでも、コロナ後の値上戦略に関するテーマが中心だ。商品やサービス料金の値上げは、会社再建などを行っていた30代前半に様々な対応法をしていた経験があるだけに、値上げのタイミングなど、戦略的な値上げ手法などについて早速レポートにまとめて提供することにする。

2月3日は節分。少し早めに帰宅して、手作りの恵方巻で夕食をとる。今年は北北西を向いて黙って食べる。夜には豆撒き。我が家は季節のイベントは恒例のごとく続けている。

翌日の4日は二十四節気の一歩目の立春だ。1872年に「改暦の詔書」が出されるまで、日本では1000年以上使われていた旧暦である。つまり、旧暦では立春から新年が始まっていた。2月4日は正月なのだ。この時期(2月4日～8日頃)を七十二候では「東風凍(こおり)を解く」という詩的な表現をしている。

金曜日の立春からは佐賀県で2日連続の講演会である。4日の午後は地元商工会の主催、5日の土曜日は、ダンの出身者であるE税理士事務所主催の講演会だ。いずれも、地元の若手経営者に対する「経営講和」で、それぞれタイトルは違うが、ポイントは「何の為に会社は存在しているのか」である。

特に、地域密着型中小企業の考え方やコロナ禍における地域社会との関わり、さらには、異常時の中でどんな対応をしてきたかという実績は、コロナ後の企業の生存に影響を与えることなどについて具体例で解説することとした。地元の若手経営者はE税理士の指導の賜物か、かなり積極的な方ばかりで、様々な角度からの質問もいただいた。

講演後の質疑応答は最も楽しみにしている時間帯である。なぜなら、講師がその場で考えなくてはならない質問がたまにあるので、これが大変嬉しい。「なるほど、そういう考え方もあるのか」と新しい切り口などを知ることができ、そこで、その考え方をベースに発想を膨らませることができるからである。

金曜日の朝は7時過ぎに家を出た。乗り継ぎの連続でモノレールで羽田空港に入る。それにしても、朝の羽田空港の閑散たるもの。乗客より空港スタッフの方が数倍多い感じであった。

福岡便も間引きが多く、機内の座席は全て一人飛ばしである。そういえば、今年の立春はコロナ禍で開催される北京冬季五輪の開幕日でもある。



久々の羽田空港 春寒し ⑤